

## 尾高一郎先生のこと

二十四回生 奥田陽一

昭和24年4月私たち24回生が三年生に上がろうとしている頃、「次の受持は尾高先生になるんやて、ものすごく怖い男先生らしいで」との噂話がありました。一・二年の担任は女先生の辻井先生、立たされることはよく有っても勿論体罰はありませんでした。「よく往復ピンタを喰らうそうや」と私たち悪ガキは戦々恐々としておりました。

いざ新学期が始まると丁寧な判りやすい授業で、先生の知る限り体罰を食らったワルは、先ずおりませんでした。少し記憶があやしいのですが、夏休みが終わり二期が始まって暫くした時（実際は昭和24年11月30日）、特に説明も挨拶も無く尾高先生が退職され、代りにやさしい女先生の梅垣先生が担任になりました。

親たちの間では「尾高先生はアカでレッド・パージに掛かったらしい」との噂が流れました。小学生にとつてはレッド・パージが何を意味するか全く判りません。ずっと後で調べると公務員を中心に共産党員やそのシンパ1万5千人以上の人々がその職を追われたそう、その先駆けだったようです。朝鮮戦争が始ま

り、アメリカでもマッカーシズムが吹き荒れ、共産主義者と見なされた人々が追放され始めた頃です。小学校三年生に判るはずも無いのですが、勿論授業の中で共産主義賛美など政治の話は、一切ありませんでした。

子供心に学校をやめてどうして暮らされるのか心配になりました（ご実家は吹田の旧家で、全く余計な心配でした）。しばらくして尾高先生が自転車で千二小へよく見えるようになり、挨拶をしたら「元気にやつてるか」と声を掛けて頂きました。自転車の荷台には教材を入れた箱が積んであり、届けに来られたようでした。吹田市の教育委員会や木岡校長先生もその辺を心配されたのでしょうか、小生が卒業する昭和28年まで時々出入りされていたと、おぼろげながら記憶しております。

13仲辻さんの「尾高一郎先生の思い出」を拝見し、その後教育界に復帰され、校長にまでなられたことを知り、大変嬉しく思いました。

その後「千二小のあゆみ」を読み、昭和34年の「30年のあゆみ」ではやめられた理由をも想像できる随想と既に「守口市立三郷小学校」に勤められていること、「40年のあゆみ」では「守口市立土居小学校」校長の肩書きで、小寺校長を偲ぶ短文をそれぞれ寄稿されておりました。